

第3回 藤沢駅南口交通広場調整会議 議事要旨

■日 時：2018年（平成30年）11月30日（木）9時30分から11時10分まで

■場 所：藤沢市役所本庁舎 4階 4-4 会議室
（藤沢市朝日町1番地の1）

■出席者（敬称略 50音順）

会 長：岡村敏之

委 員：飯森均、上田敬生、大澤伊知郎、川崎隆之、幸嶋規之、高橋優介、
西村靖生、前田静男、三上雅之

事務局：藤沢市都市整備部藤沢駅周辺地区整備担当、株式会社日建設計

■議事次第

1 開会

2 議事

- (1) これまでの意見について
- (2) 南口駅前広場の再整備の方向性について
- (3) 交通広場における機能の配置について

3 その他

■議事概要：

○事務局より配布資料の説明として、藤沢駅南口交通広場調整会議の位置づけについて再確認を行った後、第2回交通調整会議及びあり方検討会議に出てきた意見について報告を行った。また、これまでの意見を踏まえた再整備の考え方について説明するとともに、交通広場における機能配置について意見交換を行った。

○意見としては、「機能の配置」「機能の必要性」「再整備の方針」についての意見が出た。概要は次のとおりである。

< バスについて >

- ▶示されたバス乗降場の配置では、運行ルートが決まってしまうなどの制約が生じてしまう。
- ▶現在のバス路線を維持するためには、北東側への動線の確保が必要である。
- ▶現状、バス乗降場は同数確保しないと運用が厳しい。広場内に収まる案も検討してほしい。

- ▶観光バスについて、北口や民地に配置するなら南口には配置しなくても良いと思うが、どのように扱うかを整理すべき。

< タクシーについて >

- ▶タクシープールは、現状では 30 台くらい入るのではないかと減ってしまうと運用上困る。

< 滞留空間と北東側道路について >

- ▶公共交通空間を狭めてまで、歩道を広げ、滞留空間を確保する必要があるか。
- ▶北東側の道路は、現状、人が多く車が通れないといった苦情が多い。滞留空間と歩行者ならびに車両の通行をうまく整理する必要がある。
- ▶滞留空間については、南口にどれくらいのスペースをどう配置するのか整理する必要がある。地下通路と南口を行き来する歩行者も多いので、地下通路の入り口付近は滞留空間の配置に適した場所なのではないか。

< 南口駅前広場再整備の方針について >

- ▶バリアフリーの考え方や具体的な動線等についても明示してほしい。
- ▶個々の課題はあるものの、広場内に必ずしも必要でない機能の整理などの工夫により必要な交通機能は収まりそうだということを前提として、滞留空間を地上に配置するということであり、この前提がもし崩れたとしたら再度考え直す必要がある。
- ▶公共交通の動線は現状と同様のルートを確認していくという案を前提とし、事業者から意見等を踏まえた個々の対応や調整を進めていくというまとめをしたい。そのため、滞留空間も含めた各配置機能は流動的である。